

英 語

大学入試が大きく変わる！



ここでは英語に絞って話をしましょう。現在、国公立大学を受験するには誰もが「センター試験」を受けなくてはなりません。この「センター試験」は2技能 (*Reading, Listening*) を計るものです。しかし、現在の2学年からは、「センター試験」の後継にあたる『共通テスト』を受験することになります。また、「実用英語技能検定 (英検)、TOEIC、TOEFL、TEAP、GTEC」などの検定試験 (4技能: *Reading, Listening, Writing, Speaking* の力を測る) を予め2回受験し、特定の段階以上の得点が求められます。ただし、これらの試験がそれぞれの大学でどのように用いられるか (試験間の配点比重など)、外部検定試験はどれが採用されるかなど詳細はわかりません。国公立大学に限らず、私立大学でも現在同様、それぞれの試験が用いられる可能性は大です。情報が入り次第、皆さんにもお知らせしていきます。はっきりとしていないことがまだありますが、少なくとも頭に置いておいてほしいことは、これまで以上にアウトプット (*Writing* や *Speaking*) にも重点が置かれるということ。授業もそのことを考慮したものにしていきます。

ただし、外部検定試験にばかり気をとられてはいけません。せめて1年次は、焦らずじっくりとインプット (*Reading* や *Listening*) に時間をかけることです。いくらアウトプットしたくても、頭の中にそのための材料がないとアウトプットできないことは明らかです。では、どんなことに注意して吉田高校での授業に臨めばいいのでしょうか。

予習の徹底

英語は以前から「復習というよりも予習に重点を置いて効果が上がる教科」と言われています。高校1年の英語には「コミュニケーション英語 (コミュ英)」と「英語表現 (英表)」という科目があります。「コミュ英の予習」ではまず、新しい Lesson に入る前に可能な限りその Lesson 全体に目を通します (最低 Lesson の中で分けられている Section 一つ分)。その際、分からないところで立ち止らずに、とにかく忍耐強く最後までサッと目を通すことが大切です (これが実は後々3年生になってから生きてくる!)。それから最初に戻って、今度は精読。当然分からない単語・イディオムは辞書で調べて、その意味等をノートに書いておく。もちろん全文を訳してノートに書く必要はありません。ただし、予習の段階で分からなかった部分を明確にしておくこと。こうすれば、授業を含めると同じ英文を3回読むことになります。裏返して言うと、予習をしない人は、した人の三分の一しかやっていないことになります。どちらが頭に定着するか、将来の糧になるかは明らかですよね。「英表の予習」に関しては、教科書や参考書を見てノートに問題を解いてくること。ここでも予習の段階で分からなかった部分は明確にしておき、授業で確認する。最初が肝心ですよ!!

授業への集中

〈予習→授業→見直し〉、このサイクルがとても重要です。この流れが途中で途絶えてしまうと、学習の効果は極めて小さくなってしまいます。そして特に重要なのが——当たり前なの(natural)ことですが——「授業」です。皆さんは授業時間内で、かなりのことを理解できる能力を持っているはずですが、万が一「授業」に集中できていないとしたら、その能力を無駄にしていることになり、また「授業」を離れて「授業」でやったことを自分でもう一度やり直す、という二度手間なことをやらざるを得なくなります。分からないことも山積します。何という時間の無駄でしょうか！「授業」に集中できれば、やらずに済むことなのです。

授業の効果を上げるのが、先ほどから話している「予習」です。予習の段階で考えていたことが間違えていてもいい。それは授業に参加して訂正すればいいだけのこと。まずは自分の頭を使って考えたかどうか、これが大きいのです。これがあるかないかで、学習の理解度にかかなりの差が出てきます。与えられるものをただひたすら覚えればいいや、という考えは、最初に述べた入試改革の狙いとは 180 度違ったものになります。英語に限ったことではありませんが、自ら様々な課題に向かい、積極的に解決策を見いだす努力をする姿勢が欠かせません。

課題への取り組み

毎週「週末課題」という課題が出されます。週末にやって週明けに提出することになります。この「課題」のやり方が大切です！！まずは必ず自分の頭で考えた答えを書きます。この時に出した答えは間違えてもいいのです。それを、解答を見て赤ペンで直していく。もちろん正解には○をする。こんな風に考えている人はいませんか？「解答を見てテキストに写せばいいじゃん。それで解答を覚えられるし。」と。これが最悪のやり方です。なぜかという、まず〈積極的に自分の頭を使っていることにはならない！〉。そして〈英語の勉強には全くなっていない〉、〈書き写す〉という作業をしているだけ。確かに課題が出なければ、成績、ひいては進級に大きく影響します。でも、このやり方では全く勉強していることにはならない。***Don't waste your time!*** それぞれの課題の提出期限は必ず厳守です。真摯に課題に取り組むことで必ず力をつけることができます。

質問しよう！

皆さんは、勉強に関して分からないことが出てきたら、躊躇せず質問することができますか？実はこの「質問する」ことがとても大事です。「聞くのは恥ずかしい」とか、「またいつか・・・」とっていると——ちりも積もれば状態——分からないことだらけになって、勉強しようという意欲もわかないでしょう。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』。しかし、そもそも聞くことも素晴らしい勉強ですから、〈恥〉どころか自分の『宝』になります。タイミングを逃さず、遠慮なく質問する習慣をつけてください。実はそこからいろんな雑談に発展し、自分の進路が明確になった、なんていう生徒も実際にいるのです。

